

「多面的・多角的に考えること」

を重点とした道徳科の授業づくり

第5・6学年 道徳科学習指導案

- 1 主題名「かけがえのない命」（内容項目：D-19 生命の尊さ）
- 2 教材名「コースチャぼうやを救え」（出典「新しい道徳 5」東京書籍）
「命の重さはみな同じ」（出典「新しい道徳 6」東京書籍）

3 主題設定の理由

本主題で扱う、高学年における D-19 の指導内容は「生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。」となっている。この内容項目は、主として人間の生命の尊さについて考えを深めることが中心になるが、生きているもの全ての生命の尊さも大切に考えなければならない。生命の尊さを概念的な言葉での理解とともに、自己との関わりで、生きることのすばらしさや生命の尊さを考え、自覚を深められるように指導することが求められる。そのためには、生命の尊さについて考えを深めていくよう指導することが大切である。生命のかけがえのなさは様々な側面から考えられる。家族や社会的な関わりの中での生命や、自然の中での生命、さらには、生死や生き方に関わる生命の尊厳など、発達の段階を考慮しながら計画的・発展的に指導し、様々な側面から生命の尊さについての考えを深めていくことが重要である。

そのために、高学年の発達の段階においては、個々の生命が互いを尊重し、つながりの中にあるすばらしさを考え、生命のかけがえのなさについて理解を深めるとともに、生死や生き方に関わる生命の尊厳など、生命に対する畏敬の念を高めさせていく。

生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重しようとする態度を育てるために、学校行事において、地域と連携を図りながら通学路を中心に交通安全の大切さや自分の生命を守る必要性、交通ルールの意義、必要性を考えさせるために、学級で自分の行動等について振り返らせたり、昨今のメディアや SNS の発達によって、バーチャルな世界と現実世界を混同して考えたりしてしまう児童も多く、生命を軽視した言動や行動が多く見える。また、その度に学級会などを通じて、命が失われることの悲しさや守るための行動などを繰り返し考えてきた。しかし、「自分の生命が唯一のものである」ということや、「他者や他の生物の生命の大切さ」については、言動や行動とかみ合わなかったり、同系列での生命と捉えていなかったりなど自己関与にまで至ることが少ない。

今後は、「自分の生命と同様に他者の生命も尊いものであること」を理解した上で、「他者の生命や他の生物の生命を同系列で大切にすること」など概念的な言葉の理解だけでなく自覚をともなった心情を育てていきたい。

人が生命の尊さについて自我関与して、その価値について思考判断する上で必要な「さまざまな観点から考える」ことを重視するため、NIE による新聞記事や NPO 法人の外部講師など、地域教材を多角的に考えるための資料として教科書と関連付け、指導を行っていく。本時の学習では、登場人物の気持ちや、その心の中にある葛藤、その思いの根底にある多様な価値項目に触れることで、生命の尊重を構築する多面的・多角的な価値要素に気付かせ、自分の思考判断表現の活動につなげられるよう、自分の価値の変容や気付きについて考えさせる場面を導入と終末に位置付け、言語化させていく。

4 本時のねらい

5 年生	6 年生
問題解決的な学習をとおして、生命がかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重し主体的に大切にして、様々な問題や課題を解決しようとする道徳的判断力を育てる。	問題解決的な学習をとおして、多種多様な生物の精神的なつながりや支え合いの中で一人一人の生命が育まれ存在することを理解し、様々な問題や課題を解決しようとする道徳的判断力を育てる。

5 本授業のポイント

- ① 多面的・多角的に考えるきっかけとしてのNIEやポストカードの活用
- ② 導入展開と終末展開における価値観の変容に気付けるような合同学習を取り入れた学習展開。
- ③ ホワイトボードを活用した、価値理解に対する言語化。道徳科における表現力や読解力の育成。

6 本時の展開 (※複式道徳での対話活動を重視するため、事前に教材文を読ませて内容把握を行っておく。)

時間	第5学年学習活動 (□:発問)	○支援 □評価 ☆言語活動	○支援 □評価 ☆言語活動	第6学年学習活動 (□:発問)	時間
導入 5分	1. 写真と新聞記事をもとに自分なりの考えをもち、道徳的問題への関心を高め、中心問題への自分なりの見通しを立てる。 (全体交流) ・人間 ・ヒグマ	○自分の考えに近いところに挙手をするよう促す。 かけがえのない生命は、どれだろう。 □「生命尊重」につながる価値や考え、気づき、表現することができる。 【記録に残す評価①】	○自分の考えに近いところに挙手をするよう促す。 □「生命尊重」につながる価値や考え、気づき、表現することができる。 【記録に残す評価①】	1. 写真と新聞記事をもとに自分なりの考えをもち、道徳的問題への関心を高め、中心問題への自分なりの見通しを立てる。 (全体交流) ・人間 ・ヒグマ	導入 5分
	『かけがえのない生命』とみんなは考えて手を挙げたけど、この世界ではたくさん問題があるね。どうすれば、この地球全体で「かけがえのない生命を大切にすること」ができそうかな？				
中心問題(中心発問) 皆が「かけがえのない生命を大切にすること」ためにはどのような気持ちが必要なのだろうか？また、それはなぜか？		課題 かけがえのない生命を大切にするために必要な気持ちについて、自分なりの考えを見つける。			
それぞれの学年の教科書の物語の中で、「かけがえのない生命を大切にすること」のために行動した人たちがいるよ。その人たちを、中心問題の考えのヒントにしよう。だれだろうね？					
展開 25分	2. 登場人物への自我関与を通して、道徳的価値を自分との関わりで考え、記述する。	・ワークシートを配布	・ワークシート配布	2. 登場人物への自我関与を通して、道徳的価値を自分との関わりで考え、記述する。	展開 25分
	①この話で「かけがえのない生命」とは？ →コースチャ坊や			①この話で「かけがえのない生命」とは？ →ラブ	
	コースチャ坊やの生命を大切に考えていた人は、どんな人たち？ ①サハリン州知事 ②北海道庁 ③お医者さん ④ソ連・日本の人々 グループごとに記述(5分)⇒全体交流(2班)	○事前に資料を読ませ、資料の内容を把握させておくことで、スムーズな回答を促す。 ○学習リーダーを中心に、どんな心構えて助けたかわかるように思考ツールを用いて考えさせる。		○事前に資料を読ませ、資料の内容を把握させておくことで、スムーズな回答を促す。 ○学習リーダーを中心に、どんな心構えて助けたかわかるように思考ツールを用いて考えさせる。	

	<p>3. 登場人物へ自我関与させ、自分との関わりで道徳的価値を深め、記述する。</p> <p>コースチャ坊やを救うために、国や北海道が特例を認めました。あなたならどうする？それはどうして？</p>	<p>□道徳的諸価値の理解・他者理解のために行う。【指導に活かす評価】</p> <p>○同時間接指導にて、全体交流の意図的な指名計画を立てる。(多角的な見方を高めるため【ポイント③】)</p>	<p>□道徳的諸価値の理解・他者理解の視点【指導に活かす評価】</p> <p>あなたか獣医師なら、かなりひどいけがのラブをどうする？それはどうして？</p> <p>○同時間接指導にて、全体交流の意図的な指名計画を立てる。(多角的な見方を高めるため【ポイント③】)</p>	<p>3. 登場人物へ自我関与させ、要点をつかむ。</p> <p>記述(5分)⇒グループ</p> <p>記述(5分)⇒グループ交流(3分)⇒全体交流(班から3人)</p>	
<p>「かけがえのない生命を大切にする」ためには、いろいろな気持ちをもとにした行動があるのだね。その行動や気持ちで、今の地球全体で「かけがえのない生命を尊重する」ために使えないかな？</p>					
<p>中心問題(中心発問) 皆が「かけがえのない生命を大切にする」ためにはどのような気持ちが必要なのだろうか？また、それはなぜか？</p>					
<p>終末 15分</p>	<p>・教師の資料を自分なりに選択して読み、自分も他者の生命を尊重するための自分なりの考えや生き方を記入する。(7分)</p> <p>⇒書き終わった人から立ち歩き異学年交流(3分)。終わった人はふりかえり。 全体交流(5分)</p>	<p>・資料を配布。【授業のポイント①】</p> <p>□「生命尊重」につながる価値や考え、行動に気付き、表現することができる。【記録に残す評価②】</p> <p>○要点を板書し、まとめにつなげる。</p> <p>○直接指導にて、多くの意見を聞き、自己の考えを広げる。【授業のポイント②】</p>	<p>・資料を配布。【授業のポイント①】</p> <p>□「生命尊重」につながる価値や考え、行動に気付き、表現することができる。【記録に残す評価②】</p> <p>○要点を板書し、まとめにつなげる。</p> <p>○直接指導にて、多くの意見を聞き、自己の考えを広げる。【授業のポイント②】</p>	<p>・教師の資料を自分なりに選択して読み、自分も他者の生命を尊重するための自分なりの考えや生き方を記入する。(7分)</p> <p>⇒書き終わった人から立ち歩き異学年交流(3分)。終わった人はふりかえり。 全体交流(5分)</p>	<p>終末 15分</p>
<p>個人ごとのまとめ かけがえのない生命を大切にするためには()という気持ちが大切である。</p>					